

[108/109] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/19774>

出版情報：語文研究. 108/109, 2010-06-02. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：



編集後記

『語文研究』一〇八・一〇九号をお届けします。本号は今西祐一郎先生のご退任を寿ぐ記念号です。

今西先生は、県立静岡女子大学、京都府立大学を経て、昭和六十年四月に九州大学文学部にご着任になりました。以来、四半世紀の永きにわたって、わが国語学・国文学研究室の教育・運営に専念されましたが、国文学研究資料館の方で今西先生を次期館長に推す声が上がリ、結局定年まで一年を残して、昨年三月三十一日をもってご退職になりました。

『伊勢物語』『蜻蛉日記』『源氏物語』といった日本古典文学の表看板に真正面から取り組まれた先生のご業績については、いまさら申し上げるまでもありませんが、教育面においても、学生の自主性を重んじた自由な雰囲気のもと、多くの優れた人材を育成されました。同時に、評議員、学部長（研究院長）、副学長、附属図書館長を歴任され、大学の管理運営にも大きく貢献されました。ものごとを大所高所から眺め、重要な流れをしっかりとつかんで、ここぞというところでストレート勝負に出られるその手腕は、先生の学問方法と同質の美学に貫かれ、見事というほかありませんでした。一年とはいえ、定年前のご退職は、学生をはじめとする残された側にとつては痛恨事でしたが、しかし、国文学研究資料館長へのご就任は、学界にとつては慶賀すべきこと。先生のさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

昨年六月開催の九州大学国語国文学会では、プログラムの最後に先生の最終講義を兼ねた特別講演を設定し、『伊勢物語』後人注記をどう読むか』と題して、先生一流の含蓄とユーモアに溢れ

るお話を堪能させていただきました。一年遅れでやや変則的になりましたが、今年の同学会では本誌記念号を先生に謹呈する予定です。

先生は現在単身赴任中で慌ただしい毎日を送っていらっしゃると思いますが、私にとつては幸いなことに、九大文学部とは目と鼻の先の高層マンションに引き続きご在住で、こちらへお戻りの際は、眼下の九大を「大所高所から」見守ってくださいていることと存じます。

先生の末永きご活躍をお祈り申し上げるとともに、引き続き後進へのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

(高山記)

《規定》

- 一、投稿は原則として九州大学国語国文学会会員に限るが、それ以外の方に寄稿を依頼することもある。
- 二、投稿原稿は四百字詰原稿用紙三十枚内外を一応の規定とし、その際、二枚程度の要旨を添付されたい。
- 三、原稿の採否等については運営編集委員会に一任されたい。
- 四、刊行は年二回を原則とする。
- 五、刊行会費は現在年額維持会員四千元（各号二部配布）、通常会員二千元（各号一部配布）とする。
- 六、執筆者には別に二部を贈呈し、希望者には抜刷を実費で分ける。
- 七、会員以外の購読者は毎号ごとに誌代を納められたい。